



公益財団法人 国際交通安全学会
International Association of Traffic and Safety Sciences

2025.4.11.
2024年度研究調査報告会

【行政・団体連携】
2409B研究調査プロジェクト

日本型ラウンドアバウトの 普及加速に向けての調査研究

PL 中村 英樹 (名古屋大学)



➤ IATSS会員

- PL 中村英樹 (名古屋大学大学院環境学研究科 教授)
- 井料美帆 (名古屋大学大学院環境学研究科 准教授)
- 鈴木弘司 (名古屋工業大学工学部 教授)
- 永田潤子 (大阪公立大学大学院都市経営研究科 教授)
- 浜岡秀勝 (秋田大学理工学部 教授)

➤ 特別研究員

- 阿部義典 (国際航業(株) 道路計画担当部長)
- 上坂克巳 (株)片平新日本技研 専務取締役)
- 大橋幸子 (国総研 道路交通安全研究室 室長)
- 小笠原魁 (警察庁交通局 交通規制課 規制第二係長)
- 奥城 洋 (セントラルC(株) 東北支社 上級主任技師)
- 康 楠 (南京工業大学交通運輸工程学院 副教授)
- 神戸信人 (株)オリエンタルC 交通運輸事業部副事業部長)
- 久坂直樹 (パシフィックC(株)中部支社交通基盤事業部技術課長)
- 下川澄雄 (日本大学理工学部 特任教授)
- 鈴木大健 (国土交通省道路局 企画専門官)
- 関口貴志 (株)建設技術研究所中部支社道路・交通部 主幹)
- 高瀬達夫 (信州大学工学部 准教授)
- 高橋健一 (三井共同建設C(株) 道路第一部 部長)
- 竹本由美 ((一財)国土技術研究センター 上席主任研究員)
- 立田安礼 (国土交通省道路局企画課 課長補佐)

- 田中耕司 (警察庁交通局 交通規制課 課長補佐)
- 張 馨 (名古屋大学大学院環境学研究科 講師)
- 宮坂好彦 (株)建設技術研究所 東京本社 主任技師長)
- 宗広一徳 ((国研)寒地土木研究所寒地交通T 主任研究員)
- 吉岡慶祐 (日本大学理工学部 准教授)
- 米山喜之 (株)長大 社会基盤事業本部 担当部長)
- 渡部数樹 (株)オリエンタルC 関東支社 交通政策部 次長)

➤ 研究協力者

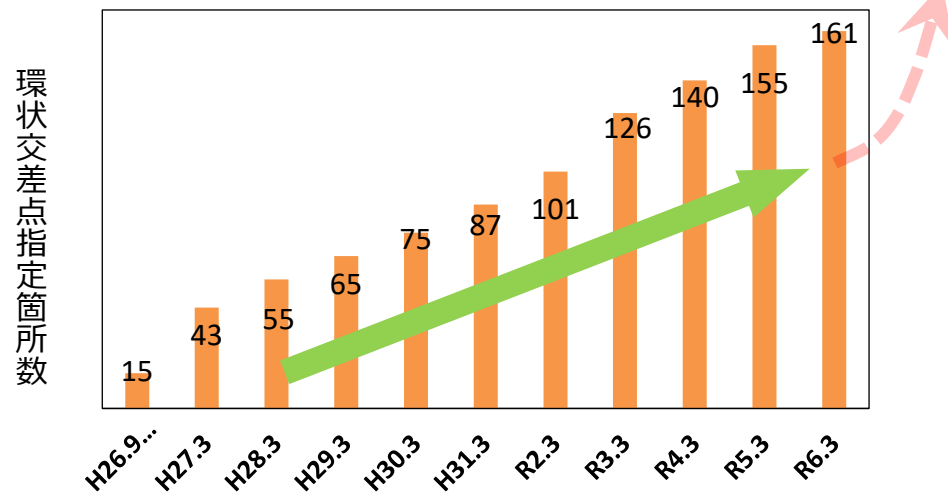
- 上田元太 (名古屋大学大学院環境学研究科 博士前期課程)

➤ オブザーバー

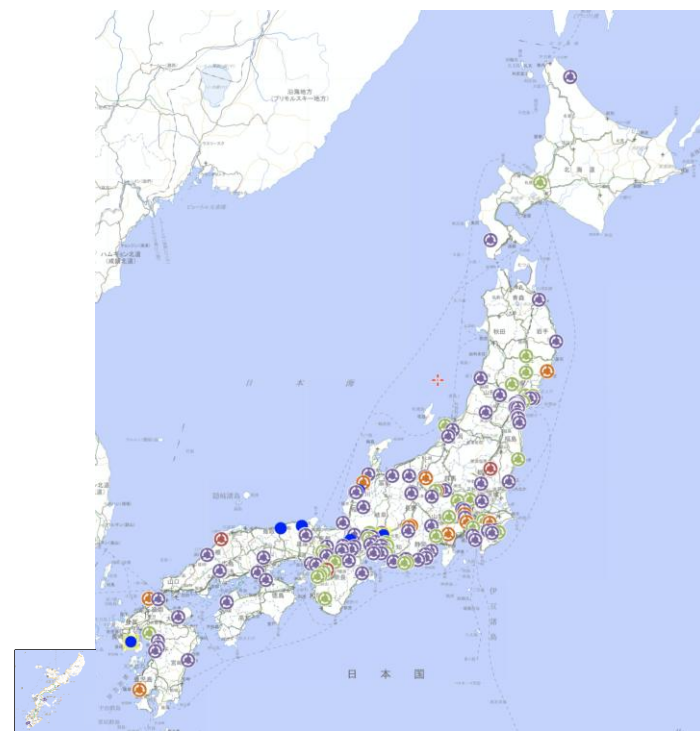
- 牧内一司 (飯田市建設部地域計画課 課長)
- 松平博文 (飯田市建設部地域計画課 課長補佐)
- 四谷晋司 (名古屋市緑政土木局道路維持課 担当課長)
- 北川貴史 (名古屋市緑政土木局道路維持課 課長補佐)
- 中山貴友 (株)道路計画 技術部 課長)
- 多田 神 ((一財)国土技術研究センター 研究員)
- 松村みち子(タウンクリエイター 代表/IATSS顧問)

背景と問題意識：普及加速の必要性

- 2009年、IATSSでラウンドアバウト(RAB)に関するプロジェクトに着手以来、継続的な調査研究
→導入検討調査～社会実験～社会実装～法改正に伴う本格展開
- 現時点では全国で160余のRAB、先進諸国の中での普及レベルにおいては未だ緒に就いたばかり
 - 各都道府県で数か所程度では、身近な存在となるには程遠い
 - 諸外国では指数関数的に普及（例：米国は20年間で約1万箇所）
- 平面交差点において悲惨な交通事故が未だ後を絶たず、自動運転車の導入も期待されている中で、国際的視点に立ちつつ日本にふさわしいRABを普及させていく必要性
- まちづくり、地域づくりのための身近な存在に
- 普及を阻む課題の特定、解決が必要



警察庁「環状交差点の導入状況」より作成



研究プロジェクトの目的

日本で特に重視されると考えられる，省スペース，省コスト，簡易設計，多様な利用者，合意形成プロセスなどの課題対応について，我が国独自のスペックや手法を検討し，これらを積極的に発信していくことにより，日本のRAB普及加速に資することを目的とする。

➤ 普及を阻む要因の特定と排除

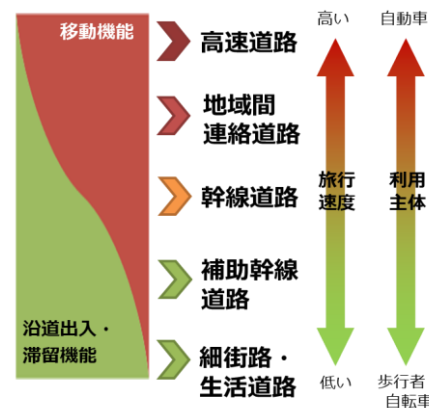
1. 認知促進

- － 認知度調査・要因分析
- － 認知度の低い地域での**セミナー開催**
- － RABデータベース(DB)の充実

2. 省スペース・省コスト型の小型ラウンドアバウト

- － 補助幹線道路・生活道路での**社会実験**による実証
・データ収集
- － 小型ラウンドアバウトのスペック提示

道路の機能的階層



➤ 2023年度 2309Aプロジェクト

- 1) 日本におけるRAB導入に際して課題となる事項の行政ニーズ調査
- 2) それらに関する海外動向調査
- 3) 日本型RABの課題整理とスペック検討
- 4) DBの更新, セミナー開催準備調整

➤ 2024年度 2409Bプロジェクト

- 1) 日本型RABの課題整理とスペック検討
- 2) セミナー開催による意見交換
- 3) 省コスト型RAB社会実験候補箇所の調整
- 4) 社会実験準備・実施
- 5) DBの更新

➤ 2025年度

- 1) 社会実験の継続実施・データ収集・分析による実証
- 2) セミナー開催による社会実験評価・意見交換
- 3) 社会実験結果に基づく日本型ラウンドアバウトの検討
- 4) DBの更新
- 5) 日本型RABのとりまとめ



2409Bプロジェクトの主な項目

2309Aプロジェクト
自治体ニーズアンケート調査

認知度・
ニーズ把握

ヒアリング

2. RABセミナー開催

1. 課題整理

意見交換・
合意形成

3. 社会実験・実装

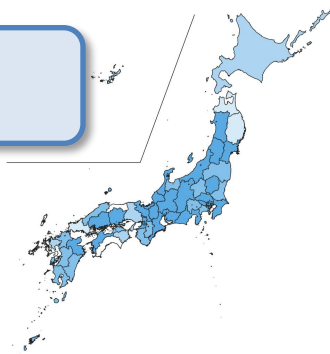
日本型・小型RAB

評価

4. 技術的検討

データベース
・ 情報提供

海外動向調査



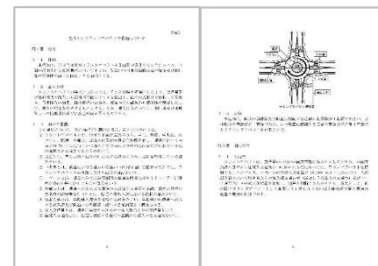


1. ヒアリング等に基づく課題整理

全国自治体等アンケート調査(2023.11) | ATSS

▶ 各行政機関のRAB検討・導入実績(A, B, C)に応じて質問項目を差別化

【A】 導入済	【B】 導入検討したが未導入	【C】 未検討
・「ラウンドアバウト」(RAB)の認知度 ・参考資料Ⅰの閲覧経験 ・参考資料Ⅱの閲覧経験 ・RABの通行経験		
RAB導入に期待した効果		RAB導入に期待できる効果
RABの活用・展開に必要なこと		
	導入を断念した段階と理由	



参考資料Ⅰ:「望ましいラウンドアバウトの構造について」
(H26.8 国土交通省道路局 課長通知)



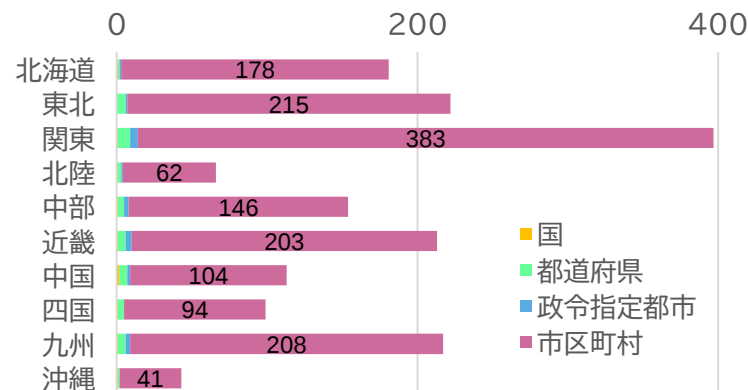
参考資料Ⅱ:「ラウンドアバウトのすすめ」
(R4.10 国土交通省道路局・警察庁交通局)

▶ 回答受領数：計1,728, 欠損なし有効回答数：1,705

▶ 有効回答の組織別内訳

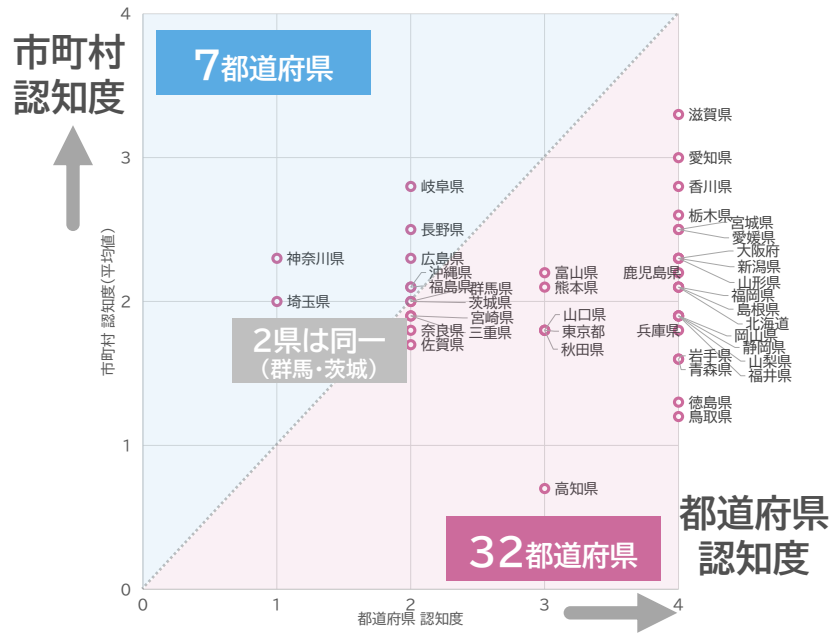
種別	数	割合
国(整備局・開発局, 国道事務所)	10	1%
都道府県	41	2%
政令指定都市	20	1%
市区町村	1,634	96%
合計	1,705	100%

・地域別内訳



ヒアリング対象箇所選定基礎資料

▼ 都道府県と市町村の認知度の差(2309Aプロジェクト分析結果)



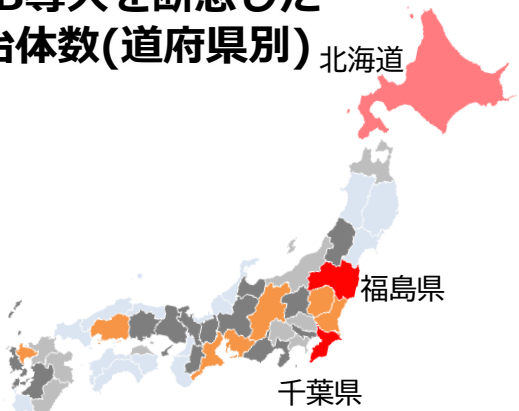
認知度の差 (市町村－都道府県)	都道府県名
-2.8	鳥取県
-2.7	徳島県
-2.4	青森県
-2.4	岩手県
-2.3	高知県
-2.2	兵庫県
-2.1	福井県
-2.1	山梨県
-2.1	静岡県
-2.1	岡山県

※徳島県が県と市町村の認知度の差が全国2位であったが、2024年7月に高知にてRABセミナーを実施したため調査対象から除外

【凡例】
ヒアリングを実施した自治体

▼ RAB導入を断念した自治体数(道府県別)

- 【凡例】
- 5団体
 - 4団体
 - 3団体
 - 2団体
 - 1団体
 - 0団体



▼ RAB導入を断念した段階(対象:北海道, 福島県, 千葉県)

段階	北海道	福島県	千葉県
企画・立案段階 (構想段階)	札幌市 稚内市 美瑛町	郡山市※ 喜多方市 南相馬市 只見町	習志野市
調査・計画段階 (検討段階)	森町	矢吹町	木更津市 南房総市 多古町
設計段階			君津市
施工段階			

【凡例】
ヒアリングを実施した自治体

※当時の内容を把握する職員がいないほか、導入検討時の資料が存在しないため断念

質問事項	調査目的		
	1. 認知度向上策の 検討 (情報展開方法)	2. 導入・普及に 向けた検討 (導入断念した 自治体への対応)	その他 (民間事業者)
市町村への 情報展開方法 ，課長通知やリーフレットの 周知状況	○		
都道府県内でRABの導入が 進まない理由や課題	○		
導入を検討した交差点の 基礎情報 (経緯，目的，交通量など)		○	○
導入を 断念した経緯・理由 と その他対応の内容		○	
RAB導入・設置の インセンティブ (販促など)			○
RAB導入・設置にあたって 苦労した点や課題		○	○
RABの導入促進に係る 今後の方針 (課題，取組，必要な支援内容)	○	○	○
検討中の 小型RAB に関する効果(期待感)	○	○	○

項目	課題	今後必要な取り組み
広報，人材育成関連	- 土木技術者が少ない，認知度が低い - 財政難により，研修に係る出張もままならない - 異動毎に知識がリセットされる - 周辺にRABが無く，周辺住民にも馴染みが無い	認知度向上 - 導入自治体における問題点に関する情報提供 - 社会資本整備総合交付金を活用して導入した他市町村の事例 - 都道府県主催の研修会におけるRABに関する紹介 - 国道，県道等へのRAB導入事例の増加
検討プロセス	- 検討内容・プロセス，タイムスケジュールに関する情報の不足 - マニュアル等においてRABの検討を必須とする根拠が不足	- 都道府県策定の設計要領，積算基準書等での記載 - 導入適地の抽出条件整理
コスト	用地買収，家屋補償が困難	既存の交差点の用地内で設置できるRAB
技術・安全	逆走への懸念，高齢者等の慣れに対する不安	セミナーなどRABに関連した対話の場 - 設計経験がないコンサルタントも多いので，相談窓口が必要
積雪寒冷地における課題	- 積雪寒冷地における除排雪の難しさ - 冬期は路面標示が見えない	- 冬季に想定される課題(除雪，路面標示など)に係る解決策の情報発信 - 積雪寒冷地に対応した設計マニュアル
維持管理	植栽・雑草の管理	

→ 本プロジェクトのニーズを改めて確認

ヒアリングを踏まえた対応方針(案)

項目	短期的取組み(案)	中・長期的取組み(案)
広報, 人材育成	- セミナー企画 - 導入検討, 運用時における課題の収集・整理	- 一般市民を対象とした広報手法検討 (動画配信, SNS等を活用した情報発信等) - 計画～供用までのプロセスを整理した資料作成と展開
検討 プロセス	導入経緯等のとりまとめ (e.g. 2014年度H2645プロジェクト報告)	- 交差点制御方式の比較検討, 選定を具体的に記述した手引き等の作成 - 都道府県の設計要領や積算基準書, 警察協議資料等への反映の提案
コスト	小型RABの事例や社会実験・研究成果の整理と情報発信	補助金活用による整備事例集の作成
技術・安全	導入適地の抽出方法の整理	気軽に相談可能な問合せ先の準備 (主に自治体等を対象)
積雪寒冷地	- 冬季期間中の想定される課題に係る解決策(FAQ)の収集・とりまとめ - Website等を活用した情報発信	- 積雪寒冷地に対応した設計マニュアル策定 - 積雪寒冷地の自治体を対象としたセミナー等の実施

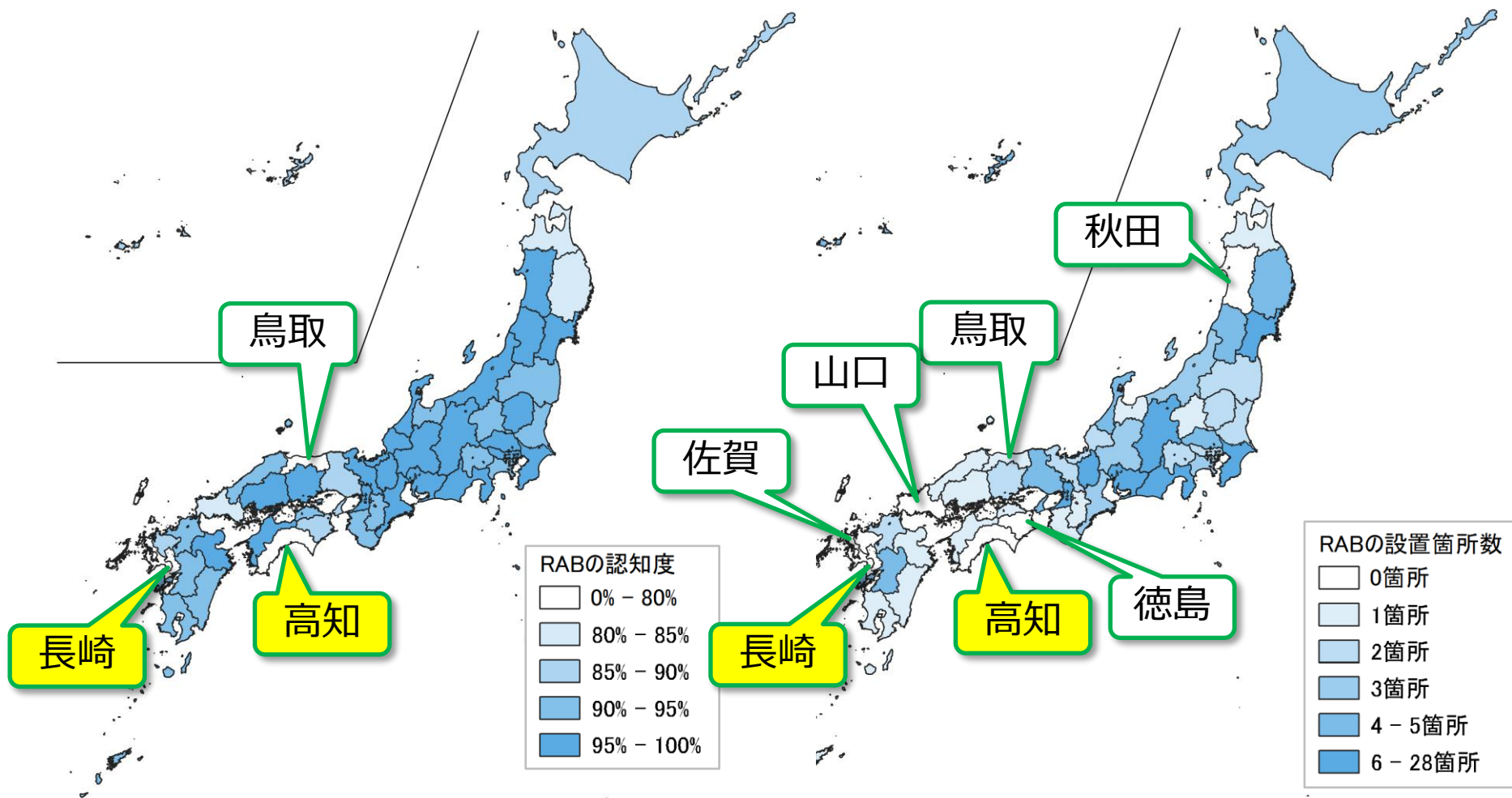
➤ これらの取組み(案)について, 今後実施主体を整理し具体化できることが望まれる

－ 実施主体 → 学会, 道路関連協会, 国, 都道府県, 市区町村, 警察, 建コン協, 等

2. RABセミナー開催による 認知促進と意見交換

➤ 認知度の都道府県分布

➤ 都道府県別RAB設置箇所数



▶ 参加者：四国地域の道路管理者・警察，70名

ラウンドアバウトセミナー

四国地方セミナー

2024年 7月19日 金

時間 セミナー 13:30~15:35 (13:00開場)
意見交換会 15:50~17:00 (高知県行政関係者)
会場 高知工科大学永国寺キャンパス 教育研究棟1F A104会議室

参加費 無料

セミナープログラム

13:30 開会挨拶	国土交通省 四国地方整備局 土佐国道事務所 事務所長 森山 崇
13:35 趣旨説明	(公財)国際交通安全学会(IATSS) 2409Bプロジェクトリーダー 名古屋大学大学院 環境学研究科 教授 中村 英樹
13:40~14:00 国からの情報提供	「ラウンドアバウトとは？」 国土交通省 道路局 環境安全・防災課 道路交通安全対策室 企画専門官 鈴木 大健 警察庁 交通局 交通規制課 課長補佐 田中 耕司
14:00~14:20 基調講演	「四国における道路交通とラウンドアバウトのすすめ」 高知工科大学 システム工学群 教授 西内 裕晶
14:20~15:20 ラウンドアバウトの解説	「ラウンドアバウトはどんな箇所への導入がよいか」 2409Bプロジェクトリーダー 中村 英樹 「設計のポイント」 2409Bプロジェクト 特別研究員 高橋 健一 「交通運用上のポイント」 2409Bプロジェクト 特別研究員 神戸 信人
15:20 質疑応答	
15:30 閉会挨拶	高知県 土木部 道路課 課長 中村 征彦

■主催：(公財)国際交通安全学会(IATSS)2409Bプロジェクト
■後援：国土交通省、警察庁、(一社)交通工学研究会、ラウンドアバウト普及促進協議会

1. 国からの情報提供

(1)国土交通省

- 「ラウンドアバウトのすすめ」からRABに期待される効果，全国の整備事例を紹介

(2)警察庁

- 環状交差点の通行方法，全国の整備箇所数の推移，事故発生件数の減少効果，小型RAB等の導入事例を紹介



2. 基調講演(高知工科大学 西内教授)

- 四国と海外でのRAB整備事例，特徴などから，高知県でのRAB整備の可能性と意義について解説



3. ラウンドアバウトの解説

- 国内外の整備事例から道路ネットワークにおけるラウンドアバウトの役割，WISNET 2050でのパフォーマンス向上へのRABの役割，計画設計・交通運用上のポイントについて解説



4. 意見交換会

(ラウンドテーブルミーティング)

環状交差点における交通事故発生状況(警察庁資料)

➤ 環状交差点導入前後比較

- 事故件数が約65%減少

(件)

	導入前**				導入後***			
	全体	死亡	重傷	軽傷	全体	死亡	重傷	軽傷
全体* (119箇所)	26	0	1	25	9	0	0	9

*対象： 導入前後の比較が可能な119箇所

**導入前：環状交差点導入前1年間の事故発生件数

***導入後：環状交差点導入次年度1年間の事故発生件数

➤ 年度別事故発生件数

- 環状交差点では，重大事故の発生が少ない

(件)

年度		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
人身事故	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重傷事故	0	0	2	0	0	0	0	0	1
	軽傷事故	3	4	6	9	10	6	7	14	6
合計		3	4	8	9	10	6	7	14	7
(参考) 総箇所数		55	65	75	87	101	126	140	155	161

▶ ラウンドテーブルミーティング グ形式

- 参加者が3つのグループに分かれ、実例に基づき意見交換
- プロジェクトメンバーがファシリテイト



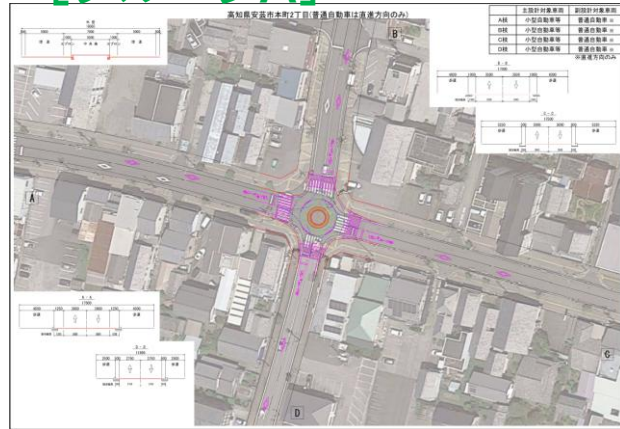
➤ グループ毎に導入候補箇所各2箇所の計画図を例示

- セミナーでの解説内容を深めつつ、導入時の留意・検討事項等について意見交換

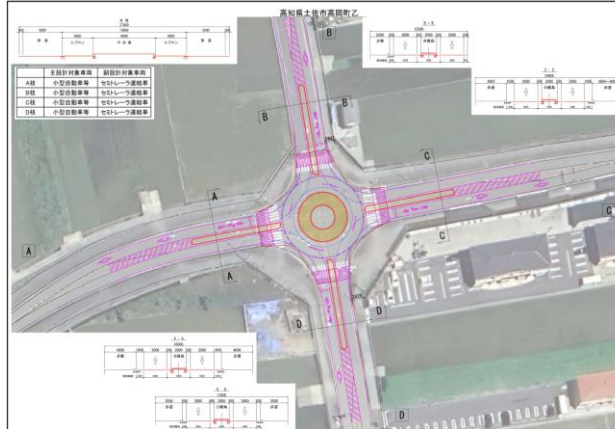
➤ 主な意見・論点

- 各候補箇所の沿道施設等の特性、通行車両の処理方法等の課題、解決方法等
- 社会実験を通じた住民・利用者との合意形成方法

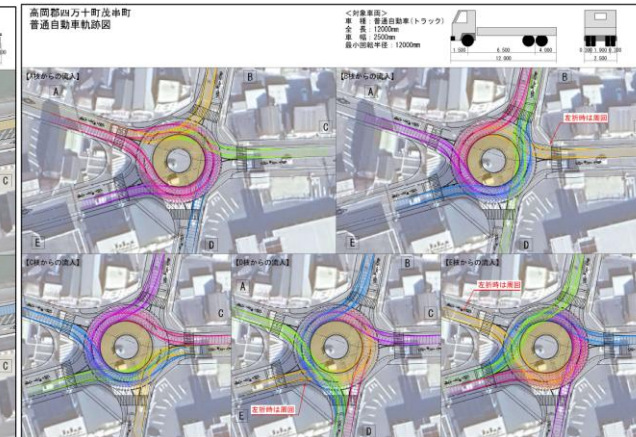
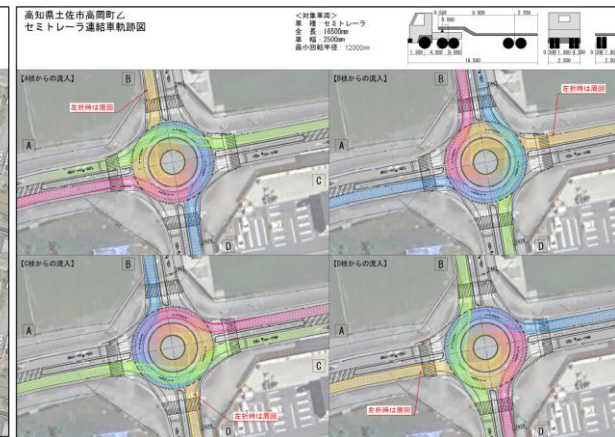
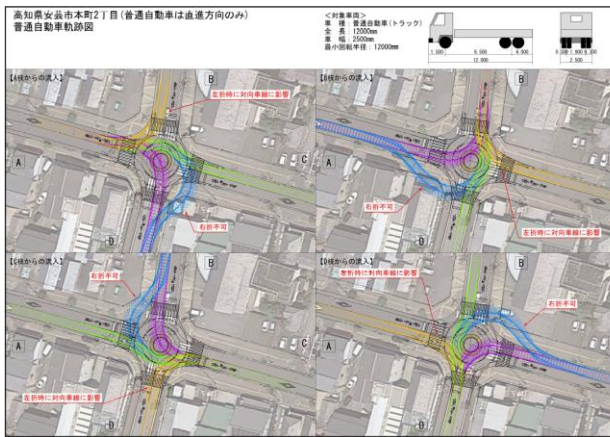
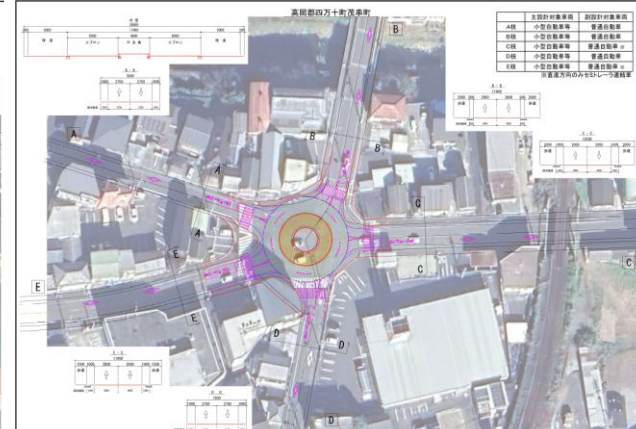
[グループA]



[グループB]



[グループC]



長崎県セミナー(諫早市, 2024.7.26.)



- 参加者： 長崎県の道路管理者・警察, 61名
- セミナーに続き, ラウンドテーブルミーティングを実施
 - 導入候補箇所3箇所について, 関係道路管理者/県警の認識・方向性の共有化と合意形成

ラウンドアバウトセミナー

長崎県セミナー

2024年

7月26日 金



参加費
無料

時間 13:30~15:20
(13:00開場)

会場 諫早市役所
本館5F 大会議室

プログラム

- 13:30 開会挨拶 諫早市 市長 大久保 潔重
- 13:35 趣旨説明 (公財)国際交通安全学会(IATSS) 2409Bプロジェクトリーダー
名古屋大学大学院 環境学研究科 教授 中村 英樹
「ラウンドアバウトとは？」
国土交通省 道路局 環境安全・防災課 道路交通安全対策室
企画専門官 鈴木 大健
警察庁 交通局 交通規制課 課長補佐 田中 耕司
- 13:40~14:00 国からの情報提供
- 14:00~15:00 ラウンドアバウトの解説
「ラウンドアバウトはどんな箇所への導入がよいか」
2409Bプロジェクトリーダー 中村 英樹
「設計のポイント」 2409Bプロジェクト 特別研究員 阿部 義典
「交通運用上のポイント」 2409Bプロジェクト 特別研究員 神戸 信人
- 15:00 質疑応答
- 15:15 閉会挨拶 長崎県 土木部 部長 中尾 吉宏

■主催: (公財)国際交通安全学会(IATSS)2409Bプロジェクト
■後援: 国土交通省、警察庁、(一社)交通工学研究会、ラウンドアバウト普及促進協議会

●お問い合わせ●
(公財)国際交通安全学会 担当: 今泉浩子 TEL: 03-3273-7884 <https://www.iatss.or.jp/contact.html>



開会挨拶
大久保潔重 諫早市長

ラウンドテーブルミーティング



資料: 長崎県住宅供給公社



セミナー参加アンケート調査

➤ 高知，長崎で実施したRABセミナーの参加者を対象に，任意にてアンケート調査を実施

▼アンケート用紙(紙媒体)

(公財)国際交通安全学会

アンケートへのご協力のお願い

本日は、「ラウンドアバウトセミナー ～長崎県セミナー～」にご参加いただき、誠にありがとうございます。今後の普及促進活動の参考とさせていただきます。お手数ではございますが、アンケートにご協力をお願いいたします。ご記入後は、受付にお渡しください。

※ ウェブから回答可能な方は、本票での回答ではなく、別紙「二次元コード」または「URL(<https://forms.gle/oFckUGyx99Vds5bt7>)」からの回答をお願いいたします。

＜個人情報取り扱いについて＞
当学会のプライバシーポリシー(右記 URL)をご覧ください。 <https://www.iatss.or.jp/privacy/>

Q1. お名前【ご記入は任意です】()

Q2. ご所属 (該当する番号 1つに○を付けてください)
① 道路管理者 (国土交通省) ② 道路管理者 (県) ③ 道路管理者 (市町村)
④ 警察 ⑤ その他公的機関 ⑥ 民間事業者 ⑦ その他

Q3. ご所属【ご記入は任意です。できれば、団体名称だけでもご記入いただければ幸いです。】
団体名称 ()
部・課・係など () 役職 ()

Q4. ご連絡先【ご記入は任意です】
電話番号 () E-mail アドレス ()

Q5. セミナーの内容はいかがでしたか？ (該当する番号 1つに○を付けてください。)

a) 全体の感想
① 非常に有意義であった ② 有意義であった ③ どちらでもない
④ あまり有意義でなかった ⑤ 全く有意義でなかった

b) 国土交通省・警察庁からの情報提供「ラウンドアバウトとは？」の感想
① 非常に有意義であった ② 有意義であった ③ どちらでもない
④ あまり有意義でなかった ⑤ 全く有意義でなかった

c) ラウンドアバウトの解説* の感想 (*:「ラウンドアバウトはどんな箇所への導入がよいか」、「設計のポイント」、「交通運用上のポイント」)
① 非常に有意義であった ② 有意義であった ③ どちらでもない
④ あまり有意義でなかった ⑤ 全く有意義でなかった

※ 裏面に続きます。

▼Webアンケートフォーマット

▼Webアンケート依頼のチラシ

アンケート調査へのご協力をお願いいたします IATSS

本日は、「ラウンドアバウトセミナー ～長崎県セミナー～」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

今後の普及促進活動の参考とさせていただきます、お手数ではございますが、アンケートにご協力をお願いいたします。



※ 個人情報の取り扱いについて
当学会のプライバシーポリシー(下記URL)をご覧ください。
<https://www.iatss.or.jp/privacy/>

＜アンケートに関する問合せ先＞
(E-mail) imaizumi@iatss.or.jp
(TEL) 03-3273-7884 (FAX) 03-3272-7054

↑上記の二次元コードよりご回答ください。
【URL】 <https://forms.gle/oFckUGyx99Vds5bt7>



国際交通安全学会(IATSS) ラウンドアバウトセミナー ～長崎県セミナー～ アンケートへのご協力のお願い

この度はお忙しいところラウンドアバウトセミナーにご参加いただき、誠にありがとうございました。国際交通安全学会で実施しているラウンドアバウトの普及促進に関する調査・研究の基礎資料としての活用を目的にアンケート調査を行っております。ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

＜個人情報の取り扱いについて＞
当学会のプライバシーポリシー(下記URL)をご覧ください。
<https://www.iatss.or.jp/privacy/>

＜アンケートに関する問合せ先＞
(E-mail) imaizumi@iatss.or.jp
(TEL) 03-3273-7884 (FAX) 03-3272-7054

[j.tada@jice.or.jp](#) アカウントを切り替える

* 必須の質問です

メール *

☐ 返信に表示するメールアドレスとして j.tada@jice.or.jp を登録する。

お名前 *

回答を入力

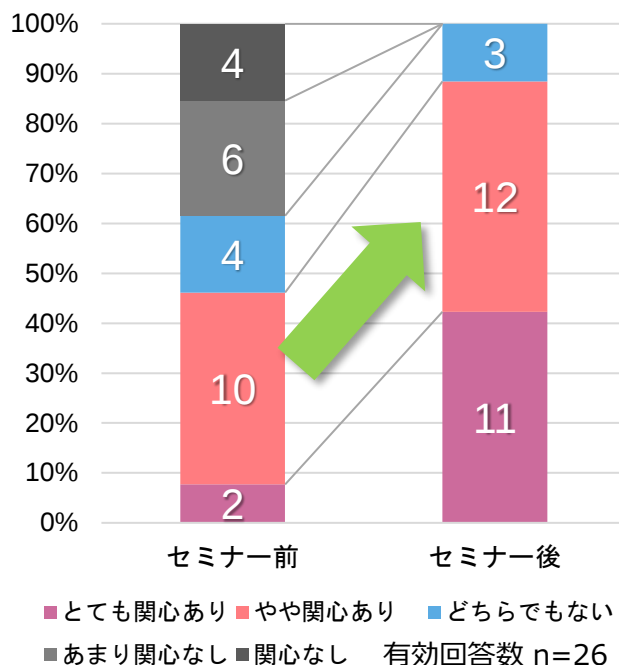
ご所属 *

☐ 道路管理者(国土交通省)
☐ 道路管理者(都道府県)
☐ 道路管理者(市町村)
☐ 警察
☐ その他公的機関

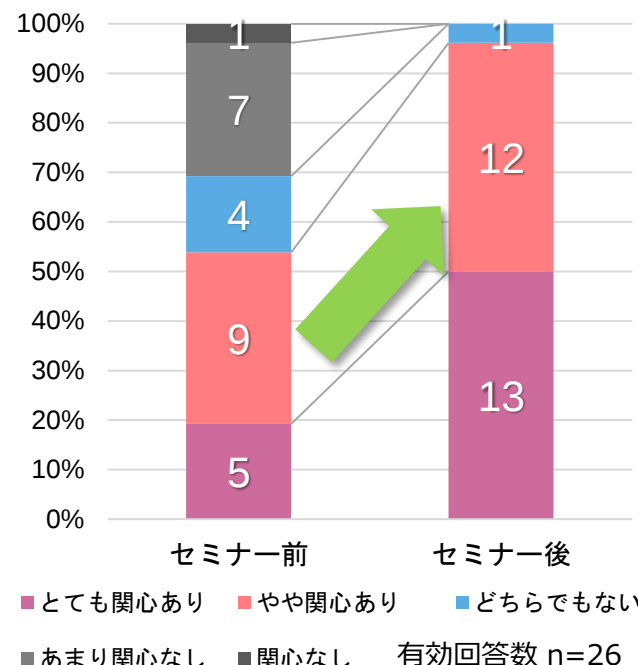
➤ RABに対する関心度(セミナー参加前後での比較)

- 高知，長崎いずれにおいても，セミナー後の関心度が向上

【高知】



【長崎】



➤ 効果

- 高知： 意見交換会での導入候補箇所の1つにおいて，**RAB化のFS開始**
- 長崎： 諫早市にて小型RABの**社会実験実施**

3. 小型RAB社会実験の実施と実装

諫早市における日本版小型RAB社会実験実施決定

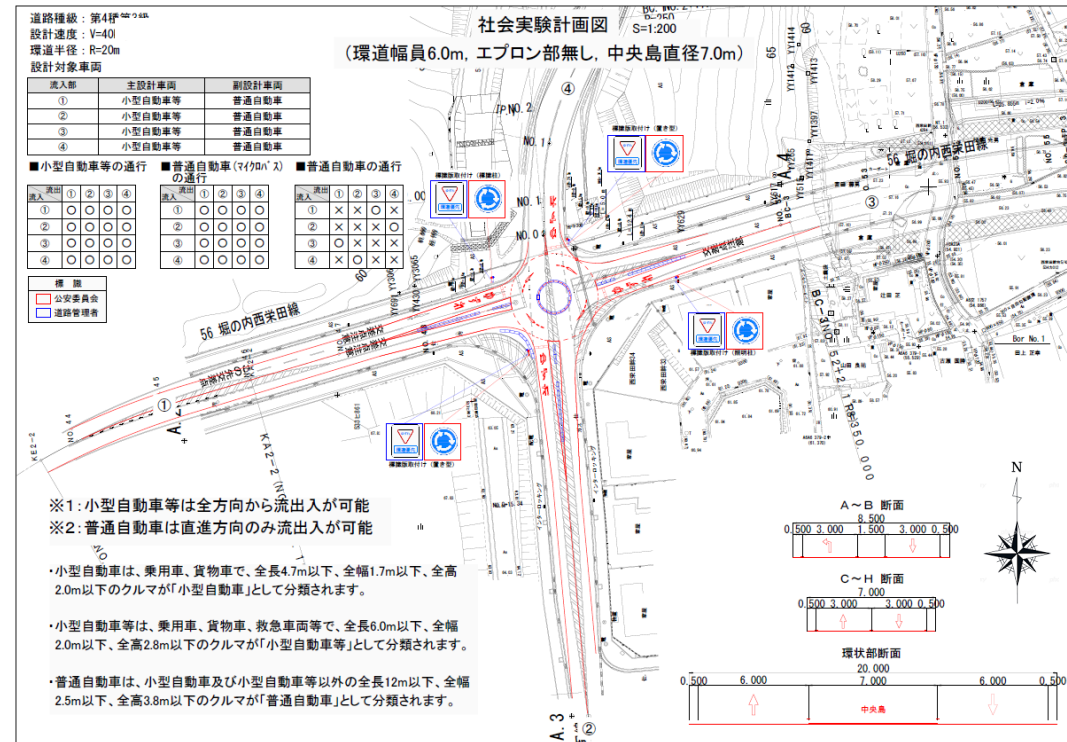
➤ 現況

- 諫早市西部台住宅地内
 - (長崎県住宅供給公社分譲)
- 市道無信号四枝交差点



➤ 社会実験

- 生活道路での小型RAB
- 外径20m(道路用地内での最大外径)
- 2025.2.14(金) 12:00開始



諫早市小型RAB社会実験に向けての準備活動

➤ 諫早市・長崎県警・2409B研究調査プロジェクトによる連携

- 諫早市，長崎県警によるプレスリリース(RAB社会実験概要)
- 諫早市，長崎県警のwebsite等でのフライヤー配布(RAB社会実験概要，通行ルール)
- 諫早市広報誌への社会実験概要掲載
- 諫早市，長崎県警による住民説明(RAB社会実験概要，通行ルール)

ラウンドアバウト の社会実験を開始！

令和7年2月14日(金)12:00～

ラウンドアバウトとは
ラウンドアバウトとは、交差点の中心に円形地帯(中央島)が設けられた円形交差点の一種です。車両は中央島に沿った環状の道路(環道)を時計回りで走行し、行先の道路へ流出します。環道を走行する車両に優先権があり、環道の交通流は信号機や一時停止などに中断されません。

場所 阿蘇神社
諫早市立明峰中
明峰中学校前交差点
諫早学院大学

この交差点です

ラウンドアバウトの導入効果

安全性	交通事故(特に重大事故)の減少 ・歩行者の歩行速度の抑制 ・歩行者と車の交差点の減少
円滑性	無駄な待ち時間の解消 ・赤信号による無駄な停止の解消 ・特殊な交差点での処理能力の向上
環境性	環境負荷の軽減 ・赤信号待ちによるCO ₂ 排出の削減 ・信号制御による電力消費の削減
防災性	災害に強い ・災害時にも電力に頼らず自律的に機能し、平時と同様の運用が可能
地域性	景観形成・ランドマーク形成 ・地域のシンボルとして景観形成に寄与

社会実験中のイメージ

現在

【一般的なラウンドアバウトの特徴】

環状交差点内は、右回り(時計回り)に通行し、できる限り環状交差点の側道に沿って通行しなければなりません。

エプロン
環状交差点内には、歩行者の通行が妨げられるため、歩行者はエプロン(歩行者専用空間)を利用する必要があります。

設置
環状交差点内には、歩行者の通行が妨げられるため、歩行者はエプロン(歩行者専用空間)を利用する必要があります。

『ラウンドアバウトの通行方法』

日本での『ラウンドアバウトの通行方法』については、道路交通法の一部を改正する法律(平成25年法律第43号)が平成26年9月1日から施行され、『環状交差点の通行方法』として定められています。

環状交差点を通行する時は？
あらかじめできる限り道路の左端に寄り、通行して進入してください。環状交差点内は、右回り(時計回り)に通行し、できる限り環状交差点の側道に沿って通行しなければなりません。

車両の優先関係は？
環状交差点においては、環状交差点内を通行している車両等が優先ですので、交差点内を通行する車両等の進行を妨げてはいけません。

左折
歩行者に注意を！
特に歩行者に注意

右折
環状交差点を出る時は？
左側の方向指示器で合図

直進
歩行者に注意を！
特に歩行者に注意

左折
歩行者に注意を！
特に歩行者に注意

右折
環状交差点を出る時は？
左側の方向指示器で合図

歩行者に注意を！
特に歩行者に注意

環状交差点に入る時
環状交差点に入ろうとすると、環状交差点内を通行するときは、その環状交差点または直近で道路を横断する歩行者などに特に注意し、できる限り安全な速度と方法で通行しなければなりません。

環状交差点を出る時
出ようとする地点の直前の出口の側方を通過したとき(環状交差点に入った直後の出口を出る場合には、その環状交差点に入ったときに、左側の方向指示器を操作し、交差点を出るまで合図を継続しなければなりません。)

資料：諫早市・長崎県警

●より詳しいことについては、下記URLよりご覧ください。

環状交差点の通行方法 <https://www.police.pref.nagasaki.jp/police/kotsu-anzen/kotsu-kisei/kanjoukousaten/>



諫早市破籠井(わりごい)町 2月14日(金)の経過

9:37 中央島設置前



10:05 中央島設置



11:23 諫早署による通行指導



16:35 路線バスと教習車



- D=20mで十分に機能することを確認
 - 住宅地としてはむしろこれで十分
- 旧優先側からの右折車の走行指導
 - 流入部正面に左矢印看板の設置
- 旧優先側・南→北方向直進軌跡・速度の制御が必要
 - RAB中心が東に偏心しているため
- 環道車両優先の徹底
 - 流入部に看板設置
- 流出時・左方向指示器の提示の徹底
 - 流出車が確認できる箇所に看板設置
- 今後
 - 3月24日に事後調査を実施し、速度・軌跡データ収集
 - 2025年度プロジェクトにて、事前事後比較分析
 - 幾何構造修正、本設計画



4. 小型RABの技術的検討とRAB-DB

日本型RABの構造要件(スペック)案の検討

➤ 外径：26m以下

- 補助幹線道路用と生活道路用で差別化

➤ 中央島

- 設置を原則(諸外国の「ミニRAB」は考慮しない)
- 小回りになることを考慮して小さめに
- 中央島の修景にも配慮

➤ エプロン

- 特に外径が小さい場合は設置しない

➤ 分離島

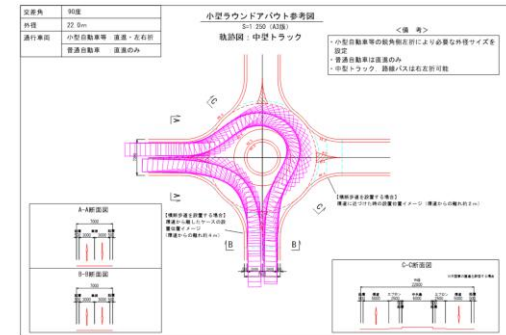
- 接近速度が低いことから、接続道路の幅員が小さい場合は省略可
- 流出入口の用地制約から、分離島に代わるデバイス(道路鉤・ゼブラ等)も可

➤ 横断歩道

- 歩行者動線・需要に応じた個別の検討
- 住宅地内では設置しなくても可
- 単路部に歩道が無い場合は設置しない

➤ 通行車両

- 当該RAB付近の道路における大型車規制の有無を確認
- 規制がない場合は、大型車の直進が可能な構造に
- 大型車の転回を検討する際は、当該RABに通行が想定される大型車により設計し、車両制限令(車両長さ12m)を絶対条件としなくとも可



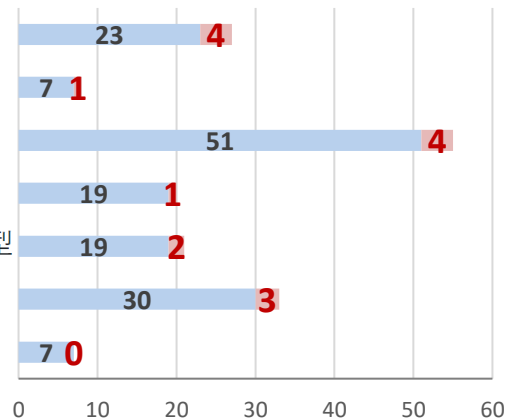
立地特性分類別RABの国内分布状況

▶ 計171箇所(2025.3.時点)

2024.4以降Webシステムに新規追加15箇所

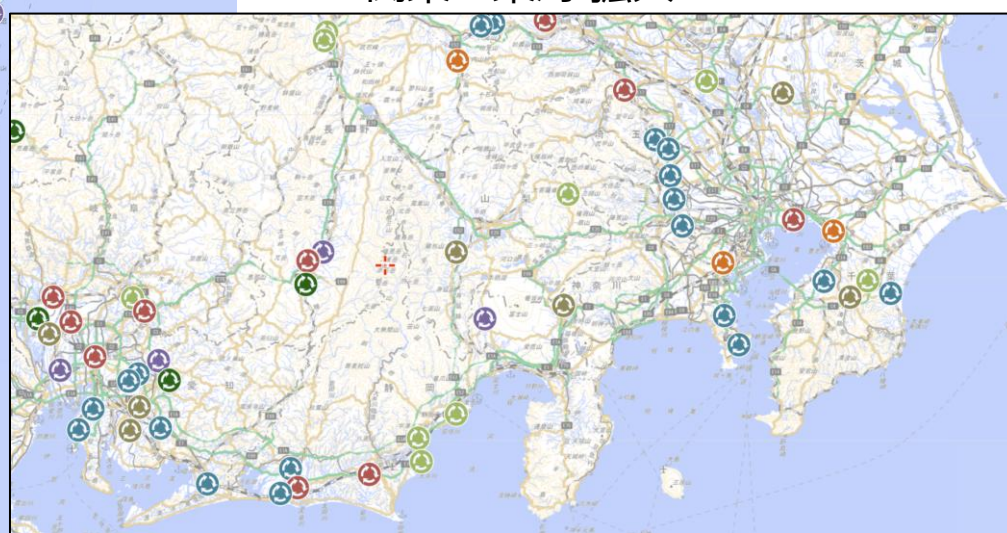
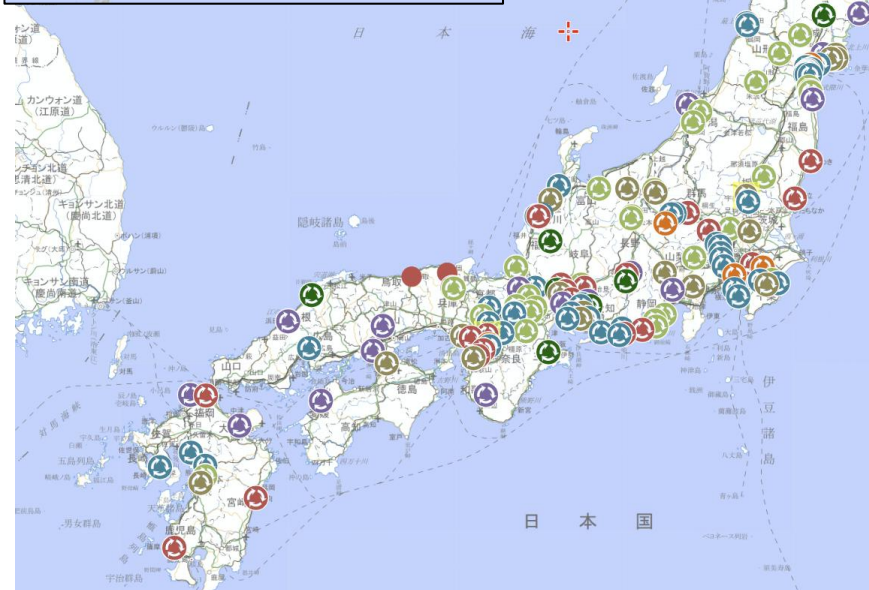
-  A:市街中心型
-  B:文教地区型
-  C:住宅地区型
-  D:郊外幹線道路型
-  E:郊外非幹線道路型
-  F:田園地区型
-  G:IC直結型

~2024.3 2024.4~



沖縄県拡大

関東～東海 拡大



➤ 是非ご覧ください



<https://www.iatss.or.jp/research/roundabout.html>

<https://rabmap.trpt.cst.nihon-u.ac.jp>

➤ RAB導入に際して課題となる事項のニーズ調査

- 2023年度自治体ニーズアンケート調査結果に基づき、RAB認知度向上策の検討、ヒアリング調査の実施、課題となる事項を整理。
- **小型・省コスト型構造、認知促進活動などの必要性を確認**

➤ セミナー開催とその成果

- 高知市(7/19)、諫早市(7/26)にてRABセミナーを実施。参加した行政担当者・技術者らとのラウンドテーブルミーティングにおいて、各県内候補箇所について議論した。
- 高知県にて、既存信号交差点の**RAB化のFS開始**。
- 諫早市については、プロジェクトの提案による**小型RAB社会実験(2025.2.14～)の実現**に結びついた。

➤ 日本型RABのスペック検討

- 米国・韓国のRAB技術指針改訂版における省コスト型RABに関する調査を実施。
- 省コストRAB導入可能性(社会実験)検討(2箇所)、日本型RABの構造要件(スペック)について検討を行った。
- 社会実験として小型RABの実装を開始し、データ収集の準備を整えた。

➤ 2025年度の方針

- 社会実験フォローアップ、意見収集、データ収集分析による日本型RABのスペック実証
- セミナー開催による認知度向上
- 日本型RABの普及加速に向けてのとりまとめ



公益財団法人 国際交通安全学会

International Association of Traffic and Safety Sciences